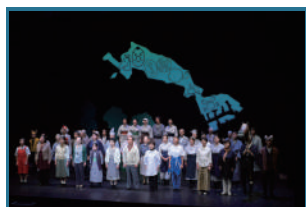


劇団員追加募集オーディション

新百合ヶ丘発！ 市民劇団・劇団わが町

川崎市アートセンター小劇場で行う2025年公演（新作）や、さらにその先を見据えた活動を行います。舞台が好きなのはもちろん、未経験でも大丈夫。地域の新しい仲間との作品創りの楽しさや演劇に触れる充実感を共有しませんか？



2024年公演「夢ふる里～昔話の川崎へ～」
(撮影：関口淳吉)

コロナが下火になると、今度はインフルエンザです。神様は何を考慮しておられるのだ、と言いたくなるようなここ数年ですが、この災厄で一番影響を受けているのが、人間関係です。予防のためにマスクをしなければならぬのはまだいいとして、大勢集まってはいけない、病人が出たら集まりは中止しなければいけないとなると、お互いに顔を見て話すことでお互いを理解し合うという、人間関係作りの基本が、忘れられてしまいます。

しかし、そういう状態だからこそ、役に立つのが演劇です。演劇は、どんな状態でも人と人はこのようにつながれるのだということを学べる、それによって生きる力を与えてくれるジャンルです。

その演劇に、市民の誰もが参加できるように、川崎市アートセンターの主催事業として、劇団わが町は、市民に門戸を開いています。

学校でも職場でも競争社会というのが、日本のエネルギーの源ですが、競争社会は必ず差別を生みます。しかし、劇団わが町では、大人も子供も平等です。それが人間形成に役立つということを、誰もが実感することでしょう。

そんな素敵な劇団わが町に、あなたもお入りになりませんか？

劇団わが町・芸術監督 ふじたあさや

オーディションについて

※当日の詳細は応募締切後にご案内いたします。

- 日程 2025年5月17日（土）10：00～18：00
- 会場 小田急線 新百合ヶ丘駅周辺
- 応募条件
 - ・2025年公演（新作）の本番、その先の活動に参加できる方
 - ・新百合ヶ丘周辺での稽古に通える方 ※出欠は応相談
(基本は週末の午後を中心に週1～2日、公演が近付くにつれ平日の夜間も加わり週3～5日)
- オーディション内容 「身体を動かす」、「台詞を読む」、「面談」
★応募者多数の場合は「書類選考」を行います。
- 応募方法 詳細はチラシ裏面または川崎市アートセンター HP をご覧ください。

劇団わが町 2025年公演スケジュール

- 日程 事前ワークショップ：6月～7月に3～4回実施 / 稽古：8月中旬開始
本番：2025年12月5日（金）～7日（日）予定
- 会場 川崎市アートセンター小劇場

応募される方へのお願い

- ・劇団わが町は単発の企画ではなく、長期的な活動をしています。ワークショップや稽古を重ね、上記の公演やさらにその先に続きます。ご理解の上、ご応募ください。
- ・このオーディションは出演者オーディションではありません。
出演、スタッフワークなどあらゆる方法で舞台創りにご参加いただけます。
- ・劇団わが町への参加費はかかりません。

お問い合わせ 川崎市アートセンター ☎ 044-955-0107 (9：00～19：30)

主催：川崎市アートセンター
後援：NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり
企画・制作：川崎市アートセンター、NPO 法人 KAWASAKI アーツ



川崎市アートセンター 小劇場	HP	
	X	
劇団わが町	X	
	@	
	f	

オーディション応募用紙

<応募フォーム>

応募方法

- ①郵送：応募用紙の必要事項をご記入の上、下記宛先までお送りください。
〒215-0004 川崎市麻生区万福寺 6-7-1 宛名：劇団わが町オーディション係
- ②応募フォーム：川崎市アートセンター HP、または右記二次元バーコードからお進みください。



締切

2025年 4月26日(土) 必着 締切後、オーディション当日のご案内、または応募者多数の場合は書類選考結果をお送りします。5/8(木)時点で連絡がない場合はお問い合わせ下さい。

フリガナ		年齢	職業	※学生の方は2025年度の学年までご記入ください(例：高校1年)
氏名				
Tel		Mail		
住所	〒			
趣味・特技				
舞台経験	※学校や習い事の発表会等も含む			
劇団わが町の公演をご覧になったことはありますか？	ある・ない / 作品名：			
※「ある」と答えた方は作品の感想をご記入ください。				
なぜ「劇団わが町」に応募しましたか？	演劇は何のためにあると思いますか？			
保護者記入欄 ※未成年者が応募する場合、ご記入ください。				
氏名				Tel

しんゆりシアター

川崎市アートセンター小劇場で創造発信する公演を「しんゆりシアター」と名付け、地域劇場＝リージョナルシアターを目指します。リージョナルシアターとは劇場が公共性をもって、プロの俳優・スタッフを集め、舞台芸術作品の創造発信を行うことをいいます。劇場の活動を評価するのは地域住民の方々です。この仕組みを理想とし、私たちは川崎市新百合ヶ丘地域の創造発信の拠点となる地域劇場を目指します。

劇団わが町

2012年に生まれたゆるやかな劇団です。11-83歳までの52名が所属しています。劇団を率いるのは劇団わが町芸術監督ふじたあさや氏。しんゆりシアターのラインナップの一翼を担い、長期的に様々な創造活動を行っていきます。

(過去の上演作品)

『わが町しんゆり』、『夢見る人』、『ザ・チャーホフ』、『わが町-溝の口』、『恐れを知らぬ27人の劇作家?と49人の俳優たち』、『クリスマス・キャロル』、『みずゞ凜々』、『題未定』、『グスコブドリの伝記』、『とんでもない大晦日～しんゆりクリスマス・キャロル～』、『あしものいずみ』2023～陸軍登戸研究所をめぐる物語～』、『夢ふる里～昔話の川崎へ～』

ふじたあさや(劇団わが町芸術監督)プロフィール

東京生まれの疎開世代。早稲田大学演劇専修在学中に福田善之と『富士山麓』を合作。放送作家を経て劇団三十人会を皮切りに劇作家・演出家として活躍。日本演出家協会理事長をはじめ、芸団協・日本劇団協議会・日本劇作家協会・児演協など演劇関係団体の役員、昭和音楽大学特任教授を歴任。アシテジ(国際児童青少年演劇協会)名誉会員。NPO法人KAWASAKIアーツ理事長。平成18年度川崎市文化賞受賞。川崎市麻生区在住。

(主な作品)【戯曲】『日本の教育1960』『ヒロシマについての涙について』(以上三十人会)、『さんしょう太夫』(前進座・斎田戯曲賞受賞)、『サンダカン八番娼館』(文化座)、『しのだづま考』(京楽座・文化庁芸術祭賞受賞)、『ベッカニコおに』(劇団えるむ)、『ミュージカル・ねこはしる』『ミュージカル・ミラクル』(昭和音楽大学)、『臨界幻想2011』(青年劇場)、『ミュージカル・のっぽの古時計』(川崎市アートセンター)ほか／【演出】『うたよみざる』(歌座)、『女殺油地獄』(人形劇団クラルテ・文化庁芸術祭演劇部門大賞受賞)ほか